



ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinan-rotary.com

WEEKLY REPORT

■承認/1991年3月8日

■例会日/火曜日・PM6:30

■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号

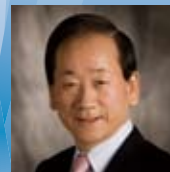
名古屋マリオットアソシアホテル2202号

TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

■会長/川辺 清次

■幹事/鈴木 清詞

■会報委員長/田中 省三



2008-2009 RI会長
リー・ドンカン氏(韓国)

第 837 回

2008年10月28日(火) 晴 第16回

～職業奉仕・米山月間～

齊唱	奉仕の理想
出席	会員 70名 (出席率算入人数 65名) 出席 50名 出席率 76.92% 前々回補填率 93.94% (10月14日分)
ゲスト	体験例会 安藤 修さん 出田真太郎さん

◆会長あいさつ◆

会長 川辺 清次さん



25、26、27日と日本建築士会の全国大会が徳島でありましたので、そのついでに瀬戸内海にある直島へ行ってきました。直島は岡山県の宇野港、香川県の高松港の中間にあり、宇野港から20分、高松港からは50分ぐらいです。

福武書店、今のベネッセの先代の社長が、直島に子どもたちのためのキャンプ場を造りたいと、1989年に国際キャンプ場ができました。そのときの建築を監修したのが安藤忠雄です。先代の社長が急逝した後は現社長である福武總一郎さんが遺志を継ぎ、1992年にベネッセハウスとミュージアムが完成しました。この美術館はホテルを併設している世界初の美術館です。

過疎の島に現代美術を置くことは新しい試みとして実験的に行われました。アーティストに現地まで足を運んでもらい「直島にしかない作品」を創作してもらう「サイトスペシフィック・ワークス」を行っています。福武社長は「主役は絵でなく見ている人間である。アートが自然や歴史の持っている良さを引き出し、それが人間を感動させる。それが現代美術のすばらしさだ」と言っています。1997年には「家プロジェクト」がスタート。直島の本村地区に古くからある民家を買って、そこに現代アートの作品を展示しています。2004年には地中美術館が完成し、モネの「睡蓮の池」や、アメリカのウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルの3人の作品だけを展示しています。

私がいいなと思ったのはベネッセハウスから行くことができるオーバルという楕円形の宿泊棟です。真ん中に楕円形の池が造っており、その回りに6室だけ部屋があります。楕円形の池の上には屋根がなく、昼間は太陽や雲の動きが見られて楽しいだろうなと思いました。

そもそも直島の産業は漁業と製塩でしたが、不景気になったときに町長が三菱マテリアルの精錬所を誘致しま

した。その煤煙が有毒ガスだったため、ほとんどの木が枯れてしまったのです。島の再生を兼ねて福武書店の社長が計画し、その意気を感じた安藤忠雄が参加したことで今日の直島となりました。

ここには建築を目指す人もよく来ます。役場、小、中学校は石井和紘の設計、宮ノ浦港の海の駅は金沢21世紀美術館を設計した妹島和世の作品です。安藤忠雄のベネッセハウスのミュージアムは、彼の作品の中でも秀逸な作品であろうと思っています。

また、香川県にはイサム・ノグチの庭園美術館、東山魁夷の瀬戸内美術館がありますし、丸亀には猪熊弦一郎の現代美術館もあります。一番のオススメは、淡路島から鳴門インターをでてすぐの大塚国際美術館です。ここは大塚製菓が75周年記念に建てた美術館です。大塚製菓が美術品を陶板に転写する技術を開発し、ルブルやニューヨークへ行かなくても世界中の美術品を転写で見ることができます。四国のほうへ行かれたときには大塚現代美術館とベネッセハウスをお勧めしたいと思います。

◆幹事報告◆

幹事 鈴木 清詞さん

- 2008年11月からのロータリーレートは1ドル100円です。
- 海外出張届
白藤 憲雄さん
10/28～11/5 アメリカ フォートローダーダール
鈴木 清詞さん
10/31～11/7 ハワイ
- 11月4日の例会は11月7日の職場例会に変更です。
- 受付に「地区史」が各自名前を付けて置いてありますので、お帰りの際にお持ち下さい。

◆ニコボックス◆

- *体験例会のお二人をお招きしました。よろしくお願ひします。安藤君と出田君です。 川村 繁生さん
- *小山さん、小澤さん、ご無理を言いました。卓話よろしくお願ひいたします。 生野 房江さん
- *本日は卓話、趣味の効用—医学的趣味論について17年ぶりにお話します。 小山 慎介さん
- *小山さん、小澤さん、会員卓話楽しみにしております。 加藤 英敏さん 鈴木 清詞さん 杉本 勇さん 武藤 正行さん 入谷 直行さん 久米 伸治さん

第839回例会(11月11日)のご案内

クラブフォーラム

ロータリー財団委員会、社会奉仕委員会
環境保全・保健問題委員会

坂田 信子さん	林 隆二さん	安藤 鉄一さん
木下 福郎さん	大隅 紀郎さん	浅井 浩さん
野々村憲吾さん	杉山 隆秀さん	伊藤 圭一さん
鈴木 厚司さん	犬飼りさ枝さん	菊岡深智子さん
山崎 淳さん	平沼 里子さん	三浦 隆さん
柴田 照子さん	長尾 浅吉さん	伊藤 博昭さん
宮崎 良一さん	水谷 誠さん	細井 俊男さん
東山 直史さん	猪村 美之さん	川辺 清次さん
榊原 和美さん	三島多恵子さん	水野 俊男さん
中西 芳子さん	木村 猛さん	本多 利郎さん
加藤 宜之さん	小野 雅之さん	江村 雅夫さん
中村 勝さん		

* 先日の名古屋養育院交流会バーベキュー、小野さん、杉本さん、平沼さん、事務局中村さん、お手伝い大変ありがとうございました。 児島 徳和さん

* 11月9日私の流儀のいけ花展を中村区役所で開催します。その折、米山奨学生のニーさんがベトナムをイメージしてお花を出品します。又着物も着たいと申しましたのでかわいい日本娘？が現れます。どうぞ皆様お出かけ下さい。 堀田 光江さん

本日合計 50,000円 累計 709,000円

◆委員会報告◆

●親睦活動・家族委員会 山本 郁矢さん
忘年家族会のご案内をします。12月19日(金)、ウェスティンナゴヤキャッスルで開催します。会費はメンバーは無料、メンバーのご家族1名につき1万円、9歳以下の方は無料です。なるべく早くお返事をいただきたいと思ひます。

●ロータリー財団委員会 委員長 児島 徳和さん
先日の土曜日に、ロータリー財団地区補助金事業として、名古屋養育院へ野球チームおよびソフトボールチームのユニフォームを寄贈して、併せて交流会を実施しました。皆様から頂いた寄付金は、69000円になりました。残金をニコボックスに入れさせていただきます。ありがとうございました。

◆会員卓話◆

●小山 慎介さん
この歳になりますと、一番大切なことはいかに自分自身の趣味を持っているかだなということを常々考えるようになりました。今日は趣味の効用について、「医学的趣味論」という本を参考にお話しします。



1年のうちに土日休日を含めて何日お休みがあると思ひますか？124日、約3分の1です。「趣味を持たない人々は早く老け込んでしまう」と言われておりますが、この趣味とはいったい何だろうと辞書を引いてみますと「職業としてではなく、楽しみまたはたしなみとする芸事や勉強」と出ています。

例えば私は建築設計をしています、刀が大好きで刀の収集をしています。私もし刀屋のおやじになったら趣味と実益が兼ねられると思ひますが、残念ながら世の中そううまくいきません。嫌々ながら仕事をしている人だっけかなりいるわけですね。

毎日、嫌々仕事をしているとどうなるでしょう。うつ病や円形脱毛症、あるいは五月病などの現代病になってしまいます。幸い、感情はホルモン分泌を盛んにして、体をいつまでも若々しく保ってくれます。ですので、健康的な趣味は人間を生き生きさせてくれるのではないで

しょうか。私は土曜日、日曜日には刀の手入れをします。毎月の月末の水曜日になりますと、刀仲間とともに熱田神宮の宝物殿に行きます。あそこには470振りぐらいの、大変由緒正しい素晴らしい刀がたくさんあります。そういったもののお手入れをさせていただいているのです。

私はこれからも自分自身の趣味を広めたいと思ひます。RCで囲碁を教へていただいております。囲碁をやりますと頭の訓練にもなるため、趣味の一つに入れてあります。皆さんも自分から積極的に取り組めるようなものをぜひお持ちになっていただければ、人生楽しく、老後はますます若々しくなると思ひます。

●小澤 久隼さん

自分の人生は本当にちょっとしたことから「変わり」ということを常に思ひます。

高校時代は大学で勉強をするつもりでいましたので、就職活動を全くしていませんでした。しかし、所属していたラグビー部で卒業間際にちょっとした問題を起こしてしまい、大学に進むわけにもいなくなりました。これからどうしようと思ひていたところ、親が資本を出していた会社に親戚の方がいまして、そちらに入社することとなりました。それが今の竹田印刷です。



入社して1年間はバイクに乗って配達をして、2年目は3トン車の運転手をやりました。3年目で営業へ移って、4年目に静岡支店へ行きました。帰ってきてすぐに、今度は富山に北陸営業所を開設するから、富山へ営業所長で行ってくれと言われました。23歳の頃です。私一人と現地の女の子二人で富山の営業所を始めました。

私は非常に気が荒くて横着でしたから、半年もしないうちにお客さんとトラブルを起こしてしまいました。営業所の所長という立場でお客さんとトラブルを起こして出入り禁止になるとなかなか元に戻りません。少なくともお客さんとは、腹の中でいくら煮えくり返っても顔で笑える人間、これが商人だろうと思ひ、以来できる限り顔に出さないように心がけております。

昭和43年に静岡支店長になりました。富山時代、初めは自分でほとんどの業務を行っていましたが、1年過ぎて思うような業績になつてこないの、何としても人を育てなければと思うようになりました。その経験から、静岡時代の4年間は社員をどう一人前にするのかということに取り組みました。

昭和47年、仙台の東北支店長になりました。女の子が随分いた支店でしたので、結婚すると辞めてしまい、その部署から人を入れてくれと言われます。しかし私は入れませんでした。よく見ていると仕事の忙しいところは極端に仕事が忙しい、暇なところは暇ですので、仕事を部署で分け合つてやれば事足ります。こういうことは自分が渦中に入つてしまつてなかなか気づきません。全体を眺めた状況の中で物事を判断しなければならぬということをお勉強させていただきました。

そして昭和52年、35歳のときに名古屋へ戻つてきて取締役となりました。

そのような感じで、なんとか今日こうしています。本当に人生の「変わり」というのですか、どういう形で自分の人生が変わるか分からないということをお思ひます。卒業式直前に問題をおこさなければ大學へ行つただろうし、どんな職業に就いていたかは分かりません。

仕事で行つた海外でもいろいろな話がありますが、これは何かの機会があればまたお話しできるかと思ひます。